

水に恋

芝山幹郎

路地を呑む

溝を呑む

火山を呑んで島を呑み

とうに嚙みこんだ毒を生唾で殖やし

井戸の底に棲む魚を一息で釣り上げる

掏摸の空

詐欺師の空

泥棒の空

交わる空を洗濯物はまたぎ

窓からは植木鉢と怒声が降ってくる

帰るなら早く帰れ

鮎屋の長っ尻じゃあるまいし

油断の油断で民謡をがなり

語尾と眼尻をぼやけさせ

変化球ひとつの悪だくみすら持ち出せず

縦の速度って何ですか だと

薄いぜ兄ちゃん

そいつは肉の下算というものだ

舌が腫れるまで膝小僧を責めてみな

路地を呑む

溝を呑む

テヴェーレの

アルノの

サントキアラの

シンゲルの

テムズの

バシグの

ミシツピの

ハーレムの

ふっ どれも泥水をなめてきた靴先が

この午後は

漂えど沈まずの板子を蹴って

路地を呑む

溝を呑む

下れば蠅

街灯のない夜の坂を揚巻に仕立て

ガラス屑と甲虫の屍骸を撒いた石畳に

なけなしのリフを一発響かせる

「君と僕との間に紙は要せず

「すべての保険は悪夢を要す」

なんて電波だ

ふくれっ面の退場かい

エスプレッソが跣で逃げ出す空元気の密死だ

よせよ 潜中の龍

四百四病の引受どころはそこじゃない

逃げて隠れても

口をつぐむ手はないのだから

霧や寒さをいいわけにするなよ

数少ない長所とやらに眼をうるますなよ

笑顔のおまけにうっかり底を割るなよ

むしろ泣せ

伏魔の肉とねんごろに情を通じ

泣せるものなら

そこで泣せ